

ワケ カタチには理由がある(65)

Shape follows Function & Taste

～ノースアメリカン F-86F セイバー～



【←ドイツ空軍のカナディア・セイバーF.6と】



【←浜松広報館にある、軸流式の J-47 エンジン】

(撮影筆者)

本機 F-86 は、米国が開発した軸流式エンジンである J-47 エンジンを搭載し、かつ米国初の後退翼機であるという点で、エポックメイキング的な機体です。なかでも F 型は、E 型の翼の翼面積を増積しており(6-3 ウイングと呼ばれる)、線の細かった E 型とはイメージが変わります。模型の機体は F 型の中期型 F-30 で、E 型の前縁スラットを廃止し、代りに境界層板を取り付けています。日本の航空自衛隊も F-86F を使用しましたが、その後の F-40 というタイプで、前縁スラットを復活させたタイプです。境界層付機体は、少数派の F-86 ということができます。一緒に写した西ドイツ空軍のカナディア・セイバーF.6 も、自衛隊が使ったタイプと同様に前縁スラットを復活させていますから、境界層板の有無の違いを見て取れます。なお、この機体、ゴジラのポスターで描かれたように、我々の世代には、やられメカ的なイメージがありますが、実際に作ってみると、とても画になる機体です。

【模型について】

フジミ(Fujimi)製の 1/72 のインジェクションキットです。自衛隊が使用した偵察機型を再現するために、機銃口パネルが別パーツになっていますが、形状はアカデミー製キットと大きく異ならず、ストレスなく組み立てることができます。ただ、垂直尾翼先端の胴体のパネル盛り上がり(実機には可動パネルがある?)は、余計な気がして削り取ってあります。(中川裕幸 2022年6月)